

授 業 概 要

1

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
人間の尊厳と自立	講義	小西 英範		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	1年生 前期	必修	○

[授業の目的・ねらい]

- ・人間の多面的な理解を基礎に、介護福祉士としての倫理基盤の基礎を養うことを目的としている。
- ・個別支援の根源となる「人間の尊厳」と「自立」の概念を学び、歴史的過程の中でどのように発展し、福祉と結びついてきたか明らかにし、対象となる人々の尊厳を護る介護福祉と自立支援の関係性を理解する。

[授業全体の内容の概要]

- ・テキストの用語の解説を丁寧に行いながら、テキストに沿って学んでいく。日本の「人権」の歴史と合わせて、学生たちの出身国、アジア諸国の近代の歴史にも触れ「人権」や「個人の尊重」を保証する憲法や法律の形成過程を学ぶ。
- ・社会福祉や介護福祉で捉えられている「自立」の概念を学ぶ。それらをもとに、介護を必要とする人々の支援と、自立を両立するために必要な基礎知識を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・「人間（個人）の尊厳」を自分の言葉で例を出し、説明することが出来る。
- ・自立の意味を正しく理解し、自立支援に必要な介護福祉士の基本姿勢を理解することが出来ている。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	人間の尊厳と利用者主体
2	人権思想の潮流とその具現化
3	人権や尊厳に関する各国の諸規定（調べ学習）
4	人権や尊厳に関する各国の諸規定（発表）
5	社会福祉領域での副理念の変遷
6	人権尊重と権利擁護～利用者の人権と生活～
7	人権尊重と権利擁護～権利侵害の背景～
8	中間試験
9	自立の概念と多様性
10	自立とは～自立を構成する要素・介護を必要とする人の自立支援とは～
11	自立支援に必要な視点 ～意欲を高め、選択肢をふやす～
12	ICFの考え方 ～ICFにおける相互関係～
13	介護を必要とする人の尊厳と自立を護るためには①
14	介護を必要とする人の尊厳と自立を護るためには②
15	期末試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解	中間試験と期末試験の平均（80%） 出欠席の状況（10%） 提出物（10%）
	(試験やレポートの評価基準など)
	中間試験と期末試験の平均点を0.8掛けして他の点数と加算 レポートに関しては既定の文字数を越えていること

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
人間関係とコミュニケーションⅠ		講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]

利用者の主体的な生活を支援していくために利用者理解が不可欠である。利用者の思いや意欲を引き出すコミュニケーション能力が必要となる。また、チームケア、多職種連携を実践するには利用者の共通理解を促すコミュニケーション能力が必要となる。利用者の生活支援に必要な基礎的なコミュニケーション技法を身に付けることを目指す。

[授業全体の内容の概要]

支援者としての自己理解、他者理解、人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎知識を視点におき授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

支援・自己理解や他者理解から人間関係の形成について考えることができる。  
 ・信頼される人間を具体的にイメージでき人間関係の在り方を理解することができる。  
 ・自分の思いや考えを整理してわかりやすく説明することができる。  
 ・他者が自分のことを緊張することなく話ができるように傾聴を主体としたコミュニケーションが図れることができる  
 者としての自己理解、他者理解、人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎知識を視点におき授業を展開する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション（授業の目的・概要説明）、自己紹介
2	人間と人間関係（講義・演習）
3	対人関係におけるコミュニケーション（講義・演習）
4	対人援助関係とコミュニケーション①（講義・演習）
5	対人援助関係とコミュニケーション①（講義・演習）
6	組織におけるコミュニケーション①（講義・演習）
7	組織におけるコミュニケーション②（講義・演習）
8	介護実践におけるコミュニケーション①（講義・演習）
9	介護実践におけるコミュニケーション②（講義・演習）
10	ケアを展開するためのチームマネジメント①（講義・演習）
11	ケアを展開するためのチームマネジメント②（講義・演習）
12	ケアを展開するためのチームマネジメント③（講義・演習）
13	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①（講義・演習）
14	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②（講義・演習）
15	組織の目標達成のためのチームマネジメント（講義・演習）

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

- ・最新介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」中央法規
- ・ナツメ社 「介護用語辞典」

授業参加態度、レポートなどを総合的に判断する。

(試験やレポートの評価基準など)

授業参加態度(授業への参加度、発言、積極性)課題レポート(内容、期日)

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
社会保障論		講義		大西 史浩	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 前期は、社会保障というものが国民の生活にどう影響しているのか、どのような役割を果たしているのか、包括的に理解することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]  
 基本的に、テキストに沿って進める。予習をしていることを前提に授業を進めるので、事前にテキストを読んでくること。また、社会保障は範囲も広く複雑なので、復習も必須。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]  
 そもそも社会保障とは何なのか、なぜ必要なのか、国民1人1人の生活にどう関係するのか、また何が課題なのかを理解すること。

コマ数	内 容
1	ガイダンス：授業内容の説明および概説
2	社会保障とは何か
3	生活と社会福祉 (1) 家族とは何か
4	生活と社会福祉 (2) 社会と個人
5	生活と社会福祉 (3) 社会の仕組み
6	日本の社会保障制度の仕組み (1) 社会保障の役割と意義
7	日本の社会保障制度の仕組み (2) 社会保障制度の発展
8	日本の社会保障制度の仕組み (3) 現代社会と社会保障
9	社会扶助と社会保険：それぞれの仕組みと制度の違い
10	社会保険制度 (1) 国民年金と厚生年金
11	社会保険制度 (2) 医療保険
12	社会保険制度 (3) 介護保険制度創設
13	総括と試験対策
14	総括と試験対策
15	最終試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
独自プリント	リアクションペーパー、最終試験の総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	リアクションペーパー50%、最終試験50%

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
高齢者と障害者の福祉制度 I	講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

1. 介護福祉士の業務遂行に必要な「介護保険制度」の知識を習得する。
2. 同上の知識が介護の実践場面において、どのように活用され、また課題を抱えているか理解していく
3. 介護福祉士が従事する制度を正しく理解し、公助・共助の連携の中で介護福祉士に求められる役割を理解する。

[授業全体の内容の概要]

1. 介護保険制度の基礎的枠組みを理解する。
2. 介護保険利用の手続きの方法から、サービス内容を理解する。
3. 介護保険制度の動向を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 介護福祉に必要な「介護保険制度」の知識を習得している。
2. 介護福祉士が従事する場において、介護保険制度がどのような役割を担っているのか理解できている。
3. 介護保険制度の利用手続きから、サービスの内容まで正しく理解できている。

コマ数	内 容
1	介護保険制度創設の背景と目的
2	介護保険制度のしくみの基本的理解① 保険者と被保険者について 財源について
3	介護保険制度のしくみの基本的理解② 介護保険制度における保険給付 利用者負担について
4	介護保険制度のしくみと基本的理解③ 介護保険サービスの利用手続き
5	介護保険サービスの種類と内容① 居宅サービス・予防サービス
6	介護保険サービスの種類と内容② 施設サービス・地域密着型サービス
7	介護保険サービスの種類と内容③ 地域支援事業
8	介護保険サービスの種類と内容④ 利用者の権利を守る仕組み・地域包括ケアを支えるしくみ
9	介護保険制度における組織、団体の役割① 国県市の役割
10	介護保険制度における組織、団体の役割② 国保連・各事業者
11	介護保険制度における介護支援専門員の役割
12	介護保険制度の動向① 介護保険法改正その1
13	介護保険制度の動向② 介護保険法改正その2
14	介護保険制度の動向③ 介護保険法改正その3
15	期末試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新介護福祉士養成講座2 「社会の理解」	1. 定期試験による評価80% 2. 授業に臨む姿勢・出席と遅刻の状況20%
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
地域社会と福祉		講義	栗田 陽子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

- ・ 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活を社会の関係性を体系的にとらえる
- ・ 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基本的な知識を習得する

[授業全体の内容の概要]

【当事者からの聞き取りや支援プログラムの作成などを個人ワーク→グループワークで相互で学びあう】

①社会と生活のしくみ

生活の基本機能／ライフスタイルの変化／家族／社会、組織／地域、地域社会

②地域共生社会の実現に向けた制度や施策

地域社会における生活支援地域福祉の発展／地域共生社会／地域包括ケア

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・ 個人・家族・地域・社会のしくみと地域における生活の構造を理解できる
- ・ 生活と社会のかかわりや自助・互助・公助の展開について理解できる
- ・ 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方を理解できる
- ・ 地域共生社会の実現のための制度や施策を理解できる

コマ数	内 容
1	授業ガイダンス「地域社会と福祉」の学び方
2	社会と生活のしくみ①生活を幅広くとらえる
3	社会と生活のしくみ②生活の基本機能
4	社会と生活のしくみ③ライフスタイルの変化
5	社会と生活のしくみ④家族の機能と役割
6	家族で楽しく暮らす【事例検討】
7	社会と生活のしくみ⑤社会・組織の機能と役割
8	社会と生活のしくみ⑥地域・地域社会
9	社会と生活のしくみ⑦地域社会における生活支援
10	地域で楽しく暮らす【事例検討】
11	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①地域福祉の発展
12	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②地域共生社会
13	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③地域包括ケア
14	生活を支える基本システム【事例検討】
15	筆記テスト、まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規）

小テスト、期末テスト、課題レポート、授業態度（出席を含む）、を勘案

（試験やレポートの評価基準など）

合計60点以上で単位取得とする

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
介護の基本 I		講義	伊東一郎	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15回	1 単位	1学年	必須	○

[授業の目的・ねらい]

介護ニーズの複雑化や多様化など介護福祉を取り巻く状況について理解する。  
戦後の高齢者福祉の政策を振り返り、老人福祉法制定の背景や介護保険法制定の背景について理解する。  
介護福祉の基本理念（尊厳の保持、ノーマライゼーション、QOL、利用者主体、自立支援など）について理解する。  
社会福祉士及び介護福祉士法における介護福祉士の業、義務規定を理解し、介護福祉士の役割について考える。

[授業全体の内容の概要]

介護を取り巻く状況を歴史的、制度的な背景を理解して現在求められる介護像を理解する。そのために社会福祉士介護福祉士法、倫理綱領の内容だけではなく、支援を必要とする人の権利擁護を直接支援する専門職としての役割を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 生活の概念を理解した上で、介護を取り巻く課題を説明できる。
2. 様々な日常生活場面における介護実践を、根拠に基づき説明する重要性を説明できる。
3. 自立支援の在り方と安全で安心できる支援の重要性を説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺｰｽ数	内 容
1	介護福祉を取り巻く状況：介護の成り立ち、介護の概念
2	介護福祉を取り巻く状況：介護需要の変化、家族機能の変化、地域社会の変化、介護ニーズの複雑化と多様化
3	介護福祉の歴史：福祉三法、福祉六法、老人福祉法、老人医療費無料化、
4	介護福祉の歴史：1980年代～→老人保健法制定、社会福祉士及び介護福祉士法制定、介護福祉士の定義
5	介護福祉の歴史：1990年代～→高齢化率の進展、八法改正、ゴールドプラン、介護保険法制定
6	介護福祉の歴史：2000年代～→介護保険制度創設の背景の概要
7	介護福祉の歴史：2000年代～→介護福祉士の定義の変遷
8	介護福祉の理念：ノーマライゼーション、QOL
9	介護福祉の理念：利用者主体、尊厳の保持、自立支援
10	社会福祉士及び介護福祉士法：介護福祉士の義務規定、罰則
11	介護福祉士の活動の場と役割：地域包括ケアシステム
12	介護福祉士の活動の場と役割：介護予防、人生の最終段階の支援、災害時の支援
13	介護福祉士に求められる役割とその養成：介護福祉士養成課程の変遷、求められる介護福祉士像
14	介護福祉士を支える団体：日本介護福祉士会の生涯研修、日本介護学会、日本介護福祉士養成施設協会等
15	まとめと定期試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本 I 第2版（中央法規出版）	授業内で実施する小テスト：20％ 定期試験（筆記試験）：80％
	（試験やレポートの評価基準など）
	小テストと定期試験を合わせて60点以上を合格とする

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護の基本Ⅱ		演習		小西 英範	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
30コマ	2 単位	第1学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護の歴史や考え方を理解し、生活支援の視点に基づき介護の役割や専門性を学ぶ。さらに、尊厳を支える介護を理解し、介護の展開に必要なICF、リハビリテーションの考え方を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

介護福祉士としての基本的な視点および利用者の尊厳、自立支援のあり方を講義およびグループワークを通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護の成り立ち、生活支援としての介護の役割や専門性を理解できる。また、尊厳ある介護のあり方を習得できる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	自立にむけた介護① 介護の成り立ち
3	自立にむけた介護② 「介護」の見方・考え方の変化
4	自立にむけた介護③ 利用者に合わせた生活支援
5	自立にむけた介護④ 自立に向けた支援・介護の専門性
6	自立にむけた介護⑤ 「介護観」とは「衰え」や「死」を見すえたもの
7	自立にむけた介護⑥ 介護の仕事の本質的価値・介護の専門性
8	介護のはたらきと基本的視点① 介護職が行う生活支援
9	介護のはたらきと基本的視点② 介護職が行う生活支援
10	介護のはたらきと基本的視点③ 身体介護とその意義
11	介護のはたらきと基本的視点④ 身体介護とその意義
12	介護のはたらきと基本的視点⑤ 家事支援とその意義
13	介護のはたらきと基本的視点⑥ 家事支援とその意義
14	介護のはたらきと基本的視点⑦ 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義
15	介護のはたらきと基本的視点⑧ 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本

授業への参加状況・各種提出物・グループ討議・ 期末テスト

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅰ	講義	黒木 久子

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 要介護者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、要介護者やその家族、他職種とのコミュニケーション能力を身につける。

[授業全体の内容の概要]  
 コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。自己洞察する手段として自己覚知より対象者理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 ①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解する。②さまざまな介護場面でのコミュニケーションのとり方を習得する。

コマ数	内 容
1	コミュニケーションとは
2	介護におけるコミュニケーションの役割
3	他者を深く理解するためのコミュニケーション
4	コミュニケーションワーク①（傾聴）
5	コミュニケーションワーク②（傾聴）
6	コミュニケーションワーク③（察する）
7	コミュニケーションワーク④（察する）
8	コミュニケーションワーク⑤（他者理解）
9	コミュニケーションワーク⑥（他者理解）
10	介護におけるコミュニケーション①（チームワーク）
11	介護におけるコミュニケーション②（チームワーク）
12	介護における相談・助言について
13	利用者と家族の意向調整
14	介護における他職種連携
15	コミュニケーション技術まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
第1巻「人間の理解」中央法規	平常点（出席状況、授業態度、提出物）小テスト、及び筆記・実技テスト
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
コミュニケーション技術Ⅱ	講義	黒木 久子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

要介護者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、要介護者やその家族、他職種とのコミュニケーション能力を身につける。

[授業全体の内容の概要]

コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。さまざまな介護場面を想定したロールプレイにより対象者理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

① 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解する。 ②さまざまな介護場面でのコミュニケーションのとり方を習得する。 ③利用者の特性に応じたコミュニケーションの方法を習得する。 ④さまざまなコミュニケーション技法を、実習等の体験を通して理解を深める。 ⑤介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告などについて学び、その技術を習得する。

コマ数	内 容
1	介護場面におけるコミュニケーション
2	利用者の特性に応じたコミュニケーション～コミュニケーション障害の理解
3	利用者の特性に応じたコミュニケーションのまとめ
4	介護におけるチームのコミュニケーション①
5	介護におけるチームのコミュニケーション②
6	報告・連絡・相談①～スーパービジョンの意義・目的
7	報告・連絡・相談②～スーパービジョンの実際
8	報告・連絡・相談③～スーパービジョンの実際
9	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際①～失語症・構音障害
10	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際②～認知症のある人
11	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③～視覚障害のある人
12	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際④～聴覚障害のある人
13	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤～知的障害・精神障害のある人
14	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥～高次脳機能障害のある人
15	コミュニケーション技術のまとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術	授業態度、レポート提出等総合的に評価し、60点以上を合格とする。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

10

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
生活支援技術 I		講義・演習	小松 志保子	
授業の回数	(単位数) *	配当学年	必修・選択	実務経験
30	2 単位	1年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人を尊重し、自立した「生活」を支えるための専門職としての介護の知識・基本的技術を習得する

[授業全体の内容の概要]

各単元ごとに①講義（専門的知識の習得）、②介護技術（介助方法—観察・コミュニケーション・手順等）の演習、③記録（振り返り）の形式にて授業を展開  
グループ毎に介護者・利用者となり演習を実施

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

人間にとって生活とは何かを考え理解し、対象者の人生観を尊重した介助が実践できるようになる。「根拠」の基づいた基本的介護技術の習得  
・利用者主体の介護技術の習得

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション（授業の進め方・身だしなみ・演習室の使い方）
2	環境整備、ベッドメイキング
3	生活支援技術の基本原則、ボディメカニクス、麻痺・体位
4	移動の介護 意義と目的、体位変換
5	移動の介護 介護技術（起居動作：仰臥位から端座位、立位）
6	移動の介護 車いす移乗介助
7	移動の介護 車いす移動介助、トイレ誘導
8	移動の介護 介護技術（歩行介助）、まとめ
9	単元テスト ベッドメイキング
10	身支度の介護 意義と目的、座位時の着脱介助
11	身支度の介護 臥床時の着脱介助、靴下・靴の介助方法
12	食事の介護 意義と目的 食事介助方法
13	食事の介護 口腔ケア① まとめ
14	筆記試験 筆記試験振り返り、実技オリエンテーション
15	実技試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座 6  
生活支援技術 I（中央法規）  
最新・介護福祉士養成講座 7  
生活支援技術 II（中央法規）

筆記試験・実技試験総合  
含：課題提出・演習時の参加度等

（試験やレポートの評価基準など）

筆記試験 50%  
実技試験 50%

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
生活支援技術 II		講義・演習	小松 志保子	
授業の回数	(単位数) *	配当学年	必修・選択	実務経験
30	2 単位	1年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人を尊重し、自立した「生活」を支えるための専門職としての介護の知識・基本的技術を習得する

[授業全体の内容の概要]

各單元ごとに①講義（専門的知識の習得）、②介護技術（介助方法—観察・コミュニケーション・手順等）の演習、③記録（振り返り）の形式にて授業を展開  
グループ毎に介護者・利用者となり演習を実施

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

人間にとって生活とは何かを考え理解し、対象者の人生観を尊重した介助が実践できるようになる。「根拠」の基づいた基本的介護技術の習得  
・利用者主体の介護技術の習得

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション 前期実技の振り返り(車いす上での着脱介助)
2	入浴・清潔保持の介護 意義・目的、臥位での着脱介護
3	入浴・清潔保持の介護 全身清拭
4	入浴・清潔保持の介護 部分浴:手浴・爪の手入れ、部分浴:足浴
5	入浴・清潔保持の介護 機械浴・一般浴(男子)
6	入浴・清潔保持の介護 機械浴・一般浴(女子)
7	入浴・清潔保持の介護 まとめ
8	排泄の介護 意義・目的、起居動作・移乗介助の振り返り
9	排泄の介護 Pトイレ介助
10	排泄の介護 紙パンツ・パッド交換介助、尿器・便器
11	排泄の介護 おむつ交換、陰部洗浄
12	排泄の介護 その他の介助
13	睡眠の介護(意義と目的) 安楽・安眠の体位 事例検討
14	筆記試験 筆記試験振り返り
15	実技試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座 6  
生活支援技術 I (中央法規)  
最新・介護福祉士養成講座 7  
生活支援技術 II (中央法規)

筆記試験・実技試験総合  
含:課題提出・演習時の参加度等

(試験やレポートの評価基準など)

筆記試験 50%  
実技試験 50%

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護過程 I	講義	長田 淳子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	1年生	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護を行うにあたり、生活課題・ニーズをみつけ、それを解決していく過程を展開することができる。介護の知識と技術を統合して専門職としての介護過程の展開ができる思考過程を身につける。

[授業全体の内容の概要]

介護過程における一連のプロセスを理解でき、ICF理論を踏まえたアセスメントの考え方、方法を習得できるように授業を展開する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

- ・介護過程の展開を説明することができる。
- ・ICF理論とアセスメントの関係性について説明することができる。

コマ数	内 容
1	生活支援の考え方と「介護過程」の必要性(1) (講義・演習)
2	生活支援の考え方と「介護過程」の必要性(2) (講義・演習)
3	介護過程の意義 (講義・演習)
4	介護過程の目的 (講義・演習)
5	介護過程の展開 (講義・演習)
6	「介護過程」の全体像(1) (講義・演習)
7	「介護過程」の全体像(2) (講義・演習)
8	「介護過程」におけるアセスメントとは(1) (講義・演習)
9	「介護過程」におけるアセスメントとは(2) (講義・演習)
10	「介護過程」における情報の収集(1) (講義・演習)
11	「介護過程」における情報の収集(2) (講義・演習)
12	「介護過程」における情報の解釈・関連付け・統合(1) (講義・演習)
13	「介護過程」における情報の解釈・関連付け・統合(2) (講義・演習)
14	「介護過程」における課題の明確化(1) (講義・演習)
15	「介護過程」における課題の明確化(2) (講義・演習)

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座9 介護過程

授業参加 (出席率、遅刻の状況) 10%  
 課題の提出 (授業のノート、課題) 20%  
 期末テスト70% の総合得点

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅱ	講義	長田 淳子

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30	4 単位	1年生	必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 介護を行うにあたり、生活課題・ニーズをみつけ、それを解決していく過程を展開することができる。介護の知識と技術を統合して専門職としての介護過程の展開ができる思考過程を理解して自分で作成することができる。

[授業全体の内容の概要]  
 介護過程における一連のプロセスを理解でき、ICF理論を踏まえたアセスメントの考え方、方法を習得できるように授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 ・介護過程の展開を説明することができる。  
 ・ICF理論とアセスメントの関係性について説明することができる。  
 ・自分で介護計画を立案することができる。

コマ数	内 容
1 2	オリエンテーション・前期振り返り（アセスメント他）。目的論・対象論・実習中の観察・実習振り返り
3 4	情報用紙の書き方①
5 6	情報用紙の書き方②
7 8	情報の解釈、分析、関連づけ、統合化①
9 10	情報の解釈、分析、関連づけ、統合化②
11 12	事例ケース① 情報収集の方法
13 14	事例ケース① アセスメント方法講義及びグループワーク
15 16	事例ケース① アセスメント
17 18	事例ケース① ケアプラン作成
19 20	事例ケース① グループ発表及び振り返り
21 22	事例ケース② 介護過程（情報収集からケアプラン作成方法講義）
23 24	事例ケース② アセスメント
25 26	事例ケース② ケアプラン作成
27 28	事例ケース② グループ発表
29 30	まとめ及び学期末テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新・介護福祉士養成講座9 介護過程	授業参加（出席率、遅刻の状況）10% 課題の提出（授業のノート、課題）20% 期末テスト70% の総合得点 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
介護総合演習Ⅰ		講義・演習	小西 英範	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択
15	1 単位	1年生 前期		必修
実務経験				
○				

**[授業の目的・ねらい]**

介護実習Ⅰに向けて各専門科目で得た知識・技術を学生自身が活用できるように、心構えや予備知識、動機付けなどの準備を行い、実践力を身につけることができるようにする。実習後は振り返りを行い、実習Ⅱをより効果的に行えるようにする。

**[授業全体の内容の概要]**

講義や演習（ワークシートによる個別ワーク、グループワーク）を通して、学生の気づきを促しつつ疑問や不安を解決しながら実習の準備を進めていく。

他教科の施設見学や現場体験を通じ、学習意欲を高め実習に向けての不安を軽減する。

学生自身が学習成果の発表に参加する機会を持つことで体験の言語化、プレゼンテーション能力の向上を図る。

**[授業修了時の達成課題（到達目標）]**

- ・ 居宅、通所、入所等の介護施設の概要と利用者の生活像を理解でき、介護福祉士の役割を明確化できる。
- ・ 基本的なマナー及び他社理解に必要な基本的コミュニケーションの方法、記録の取り方を習得する。
- ・ 実習に対して、学生自身の目標や学習課題を明確化、言語化することができる。

**[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]**

コマ数	内 容
1	介護総合演習の位置付け
2	介護実習の意義と目的
3	実習先の概要①実習先の全体像
4	実習先の概要②介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護医療院
5	実習先の概要③居宅サービス
6	実習先の概要・発表①
7	実習先の概要・発表②
8	介護実習Ⅰにあたって 自己紹介書・目標の書き方 ・配属先の発表
9	自己紹介書・実習目標・毎日の目標作成
10	実習Ⅱ①報告会参加
11	実習準備 ・事前オリエンテーションの連絡
12	実習ファイルについて 記録の書き方
13	実習ファイルについて 記録の書き方 提出方法
14	実習ファイルについて 記録の書き方 提出方法
15	実習にあたっての心がまえ・注意点

**[使用テキスト・参考文献]**

**[単位認定の方法及び基準]**

最新 介護福祉士養成講座10  
介護総合演習・介護実習

出席や授業への取り組み、提出物の内容などを総合的に評価する

(試験やレポートの評価基準など)

実習総合評価でC判定以上（60点）を合格とする

(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	講義・演習	小西 英範

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	1 単位	1年生 前期	必修	○

**[授業の目的・ねらい]**

介護実習Ⅱ①にむけて、心構えや予備知識、動機づけの準備を行う。介護実習の中で実践力が身につけられるように準備を行う。実習後は振り返りを行い（総合演習Ⅲにて）、実習Ⅱ②における生活支援技術の実践、介護過程の展開がより、効果的に行えるようにする。

**[授業全体の内容の概要]**

介護実習Ⅰにおいて明らかになった課題の克服に向け、主に演習を通して、実習及び学内での学びを統合化を図りながら、介護福祉士として必要な知識及び技術のより一層の向上を目指す。実習Ⅱ①に向けては後半はゼミ形式をとる。

**[授業修了時の達成課題（到達目標）]**

- ・実習施設の社会的役割と、利用者のニーズの理解を通し介護福祉士に求められる役割、倫理、専門性を理解できる。
- ・介護過程と生活支援技術の実践をするため、毎日の目標を明確に立てることが出来る。実習Ⅱ①にむけた自己の課題を明確化することが出来る。

**[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]**

回数	内 容
1	介護実習Ⅰの振り返り① 個人ワークにて今回学んだことを明確化する
2	介護実習Ⅰの振り返り② 居宅サービス施設サービスなどの介護保険サービスの意義を考える
3	介護実習Ⅰの振り返り③ ポスター発表用の資料の作成
4	介護実習Ⅰの振り返り④ 発表用ポスターの作成
5	実習ファイルの振り返り
6	実習ファイルの振り返り
7	実習Ⅱ①事前学習① 実習Ⅱの意義と目的
8	実習Ⅱ①事前学習② 実習先の概要
9	実習Ⅱ①事前学習③ 実習ファイルの作成 自己紹介書 実習目標の作成
10	実習Ⅱ①事前学習④ ゼミグループ開始
11	実習Ⅱ①事前学習⑤ 自己紹介書 実習目標の作成
12	実習Ⅱ①事前学習⑥ 自己紹介書 実習目標の作成
13	実習Ⅱ①事前学習⑦ 情報シートと実習目標の確認
14	実習Ⅱ①事前学習⑧ 実習前準備
15	実習Ⅱ①事前学習⑨ 実習に向けた諸注意

**[使用テキスト・参考文献]**

**[単位認定の方法及び基準]**

最新 介護福祉士養成講座10  
介護総合演習・介護実習

出席や授業への取り組み、提出物の内容などを総合的に評価する

(試験やレポートの評価基準など)

実習総合評価でC判定以上（60点）を合格とする

授 業 概 要				16	
科 目 名				授業担当者	
介護実習 I				石島美紀	
授業回数	単位数	授業形態	配当学年	必修・選択	実務経験
17日	2単位	実習	1年	必修	○
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域における様々な場において対象者の生活を理解し、積極的なコミュニケーション実践を通して利用者理解に努める。</p> <p>基本的な介護技術を確認するとともに、障害の特性、利用者の状況に応じた介護方法を学ぶ。</p> <p>多様な施設、事業所の地域における役割を理解する。</p> <p>多職種の役割および連携のあり方を理解する。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1) 施設・事業所の一日の流れを体験する。</p> <p>2) 基礎的な介護業務を体験する。</p> <p>3) 施設内の各種プログラムを見学し、参加する。</p> <p>4) 実習日誌の記載ができる。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1) 介護福祉士としての基本的姿勢を持つことができる</p> <p>2) 実習施設の理解ができる</p> <p>3) 利用者理解への取り組みができる</p> <p>4) 職業倫理を意識した実習を行える</p> <p>5) 必要な記録類を作成することができる 6) 利用者の集団活動への参加ができる</p> <p>7) 介護職および多職種の役割を理解できる。 8) 地域における生活支援を理解することができる</p>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数	内 容				
1					
2					
3					
4	多様な介護現場において以下の体験をする。				
5	実習先種別 ・小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護・障害者支援施設・通所サービス・訪問介護				
6	1) 利用者の日常生活や生活環境・疾病・障害等を知ることができる				
7	2) 利用者と積極的にコミュニケーションを図る				
	3) 家族とかかわり家族支援について理解する				
8	4) 基本的な介護技術を確認する				
	5) 介護職の業務を体験する				
9	6) 基本的な記録物を作成する				
	7) 多職種の役割を理解できる				
10	8) 多様な施設・事業所の役割を理解する				
	9) さまざまな利用者の生活像、障害像を知る				
	10) 障害特性に応じたコミュニケーションを図る				
11	1) 1) 障害特性や利用者に応じた介護方法を体験する。				
	1) 2) 地域における事業所の役割や地域の中で介護を必要とする人の状況を理解できる。				
12					
13					
14					
15					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
中央法規出版・最新介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 ナツメ社「介護用語辞典」			①施設からの実習評価 ②実習ファイルの提出 ③巡回時の評価 ④所定時間の出席 これらを評価会議において総合的に評価する		
			(試験やレポートの評価基準など)		
			総合評価で60点以上を合格とする。		

授 業 概 要

17

科 目 名		授 業 形 態	授 業 担 当 者	
介護実習Ⅱ－1		実習	石島美紀	
授業回数	単位数	配当学年	必修・選択	実務経験
15日間	2単位	1年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

一つの施設において一定期間継続して実習を行い、介護理念・倫理について理解を深める。  
 利用者の個別性を尊重した自立生活を前提として、介護過程の基礎的展開を行う。  
 利用者の生活環境における支援の在り方を理解し、個々の利用者に適した生活支援技術発展させることができる。  
 自己目標を達成するために計画的に取り組みができる。

[授業全体の内容の概要]

- 1) 利用者の日常生活の介護を行う。
- 2) 介護過程の基礎的展開を行う。
- 3) 早番、遅番、夜勤などの変則勤務を体験する。
- 4) 医療・栄養・相談など介護分野以外の業務内容を見学、体験する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

実習Ⅰの目標に加え

- ・生活支援技術の各分野において利用者のニーズに合わせた実践ができる
- ・介護過程の基礎的な展開を実施できる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	
2	
3	
4	
5	一つの施設において継続して実習を行い以下の体験をする。
6	実習先種別 ・介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設等
7	
8	1) 要介護高齢者の日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解する。 2) 自己目標を達成するために計画的に取り組む。
9	3) 介護実践に必要な基礎的な介護過程の展開を行う（情報収集、アセスメント、課題抽出、目標設定、計画作成、実施、評価、再アセスメント）。
10	4) 自分の介護実践の根拠が説明できる。 5) 利用者の状況に応じて適切な方法、手段を用いた介護技術を提供する。
11	6) チームにおける各職種の役割を知る。 7) 介護理念・倫理について理解を深める
12	8) 利用者の個別性を尊重した自立支援を実践する。
13	9) 利用者の生活の場における支援体制を理解する。
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

中央法規出版・最新介護福祉士養成講座10  
 「介護総合演習・介護実習」  
 ナツメ社「介護用語辞典」

[単位認定の方法及び基準]

- ①施設からの実習評価
  - ②実習ファイルの提出
  - ③巡回時の評価
  - ④所定時間の出席
- これらを評価会議において総合的に評価する

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解 I	講義	中村 美代子

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 成長と発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を、自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせてイメージする。その上で、老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす経済的な不安など高齢者の気持ちについて深く理解する。また、老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を学ぶ

[授業全体の内容の概要]  
 発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 ・高齢者に多い疾病と症状の現れ方の特徴を医療の面から学び、生活場面の中での個人差を知ることができる。・高齢者に現れる症状を学び、医療職との連携について理解することができる。・利用者の自立に向けた生活支援の根拠であることを理解する。・学んだ知識を実習において実践できる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・シラバス説明 ライフサイクルワークシート
2	第1章人間の成長と発達の基礎的理解 I 成長と発達
3	第1章人間の成長と発達の基礎的理解 II 発達理論
4	第1章人間の成長と発達の基礎的理解 III 形態的成長と身体機能の発達
5	第2章社会から見た老年期
6	第2章社会から見た老年期
7	第3章ライフサイクルのなかの老年期
8	第3章ライフサイクルのなかの老年期
9	第4章老化に伴うところとからだの変化と日常生活 機能低下と日常生活への影響
10	第4章老化に伴うところとからだの変化と日常生活 低下の予防
11	第4章老化に伴うところとからだの変化と日常生活 低下の予防
12	第5章高齢者の心理 I 気持ちの理解
13	第5章高齢者の心理 II 高齢者の気持ち
14	第5章高齢者の心理 III 高齢者とのかかわり
15	科目修了試験（筆記試験）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	・出席状況：20%以上欠席でE判定・小テスト：確認テスト及び感想 40% (試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅱ	講義	中村 美代子

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 成長と発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を、自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせてイメージする。その上で、老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす経済的な不安など高齢者の気持ちについて深く理解する。また、老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を学ぶ

[授業全体の内容の概要]  
 発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を習得する学習とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 ・高齢者に多い疾病と症状の現れ方の特徴を医療の面から学び、生活場面の中での個人差を知ることができる。・高齢者に現れる症状を学び、医療職との連携について理解することができる。・利用者の自立に向けた生活支援の根拠であることを理解する。・学んだ知識を実習において実践できる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・シラバス説明
2	高齢者に多い症状・病気とその留意点
3	高齢者に生じやすい症状や病気 かゆみ・褥瘡
4	高齢者に生じやすい症状や病気 意識障害・発熱
5	高齢者に生じやすい症状や病気 脱水・深部静脈血栓症
6	高齢者に生じやすい症状や病気 移動能力の低下
7	高齢者に多い病気と留意点 糖尿病
8	高齢者に多い病気と留意点 脂質異常症と心筋梗塞
9	高齢者に多い病気と留意点 高血圧
10	高齢者に多い病気と留意点 脳卒中
11	高齢者に多い病気と留意点 大腿骨頸部骨折、骨粗鬆症
12	高齢者に多い病気と留意点 肺炎
13	高齢者に多い病気と留意点 多職種連携
14	事例検討
15	科目修了試験（筆記試験）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	・出席状況：20%以上欠席でE判定      ・小テスト：確認テスト及び感想 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
認知症の理解Ⅰ		講義	利根川 都子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

認知症に関する理解を深め、認知症の人の生活支援方法を考えることにより、その人らしい生活を支えていく能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

・ビデオ、書籍などを通して認知症の理解を深める。・ロールプレイングやグループ討議の中で、認知症の人に関わる際の基本的姿勢を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・認知症の定義、病態を理解し、類似した状態と区別ができる。・認知症の人への対応、支援のあり方を理解する。

コマ数	内 容
1	認知症との関わり 良性健忘と認知症の違い グループワーク
2	良性健忘と認知症の違い 発表
3	認知症の定義・中核症状Ⅰ
4	認知症の中核症状Ⅱ
5	BPSDⅠ
6	BPSDⅡ
7	認知症に類似した状態 せん妄
8	認知症に類似した状態 うつ病
9	認知症に類似した状態 MCI
10	アルツハイマー型認知症の進行
11	アルツハイマー型認知症の治療・ケア
12	血管性認知症
13	レビー小体型認知症
14	前頭側頭型認知症
15	治る認知症 まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解

授業態度とテスト

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみ 1	講義	佐久間 志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	1 学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

人間の人体構造や機能を理解するために必要な基礎的知識を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

- 1 解剖学、生理学、運動学などをもとに、人が生活するうえでこころとからだがどのように働くかを学ぶ
- 2 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学ぶ

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- 1 生活支援のために必要とされる、基本的な人体の構造や機能について、学生が根拠をもって理解できる
- 2 利用者の「いつもの様子」から、こころとからだの状態変化に気づく観察の視点を理解できる
- 3 医療関係職種と連携がとれるような知識を学生が理解できる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

各科目ごとにコマシラバスを通して、まとめの振り返りを行う

コマ数	内 容
1	オリエンテーション 「健康」とは何か
2	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ①細胞・遺伝について
3	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ②身体各部・内臓の名称
4	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ③全身の骨格・筋肉の名称
5	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ④脳・神経系の構造
6	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑤感覚器の構造と働き
7	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑥呼吸器について
8	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑦循環器について
9	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑧消化器について
10	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑨泌尿器について
11	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑩骨の名称・働きについて
12	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑪生殖器・内分泌について
13	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ⑫血液・体液・リンパについて
14	第2章 からだのしくみの理解 第1節 からだのしくみ 振り返り
15	科目修了試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ 2 版 中央法規	定期試験、提出物などを総合評価し、60点以上を合格とする
	(試験やレポートの評価基準など)
	60点以上を合格とする

授 業 概 要

22

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅡ		講義	佐久間志保子		
授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15	2	単位	1 学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

移動、身じたく、食事、入浴、排泄、休息・睡眠等の生活場面ごとに、こころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイント等を学ぶ

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- 1 生活支援のために必要とされる、基本的な人体の構造や機能について、学生が根拠をもって理解できる
- 2 生活支援行為の妥当性について、例えばなぜ片麻痺のある利用者の介助では麻痺側に立って介助するのかなどを、学生が医学的根拠を持って説明できる
- 3 利用者及び介護職員の安全・安楽の保持、そして効果的な身体力学を、学生がボディメカニクスの学習を通して理解する

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

各科目ごとにコマシラバスを通して、まとめの振り返りを行う

コマ数	内 容
1	オリエンテーション及び授業内容の説明と、介護に関する用語の理解
2	生命の維持と恒常性のしくみ、医療行為でないものについて理解する
3	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみと、ボディメカニクスの基本原理
4	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
5	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
6	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節 身じたくのしくみ
7	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
8	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
9	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ
10	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響
11	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
12	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持のしくみ
13	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響
14	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
15	科目修了試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ 2 版 中央法規	定期試験、提出物などを総合評価し、60点以上を合格とする
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅢ	講義	佐久間 志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

人体の構造と機能、こころの仕組みについて理解し、これに基づいた根拠ある生活支援が展開・実践できるようになる。また心身の状況がどのような要因から生じているのかを客観的に理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳ある適切な介護方法を導き出す。

[授業全体の内容の概要]

人体の構造や機能についての知識や影響する老化・疾病・障害について学ぶ。またこころとからだのしくみが関連付けてイメージしとらえられるように、映像や図を使い理解していく。演習も行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護実践・展開に必要な観察力、判断力の基盤となるこころとからだの仕組みを理解する。人体に影響する老化・疾病・障害・心の健康について理解する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・説明
2	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ
3	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
5	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節 身じたくのしくみ
6	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
7	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
8	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ
9	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響
10	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
11	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持のしくみ
12	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
13	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
14	科目終了試験
15	まとめ・ふりかえり

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
こころとからだのしくみ(中央法規)、得意になる解剖生理(照林社)	定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
医療的ケア I	講義	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	4 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護福祉士として、「医療的ケア」を実施することに対する意義の理解、安全に実施できるための実技指導、医療職に適切につなげる判断力の習得を目指す。

[授業全体の内容の概要]

「医療的ケア」が生活支援の一環としての行為を理解したうえで、「喀痰吸引」「経管栄養」の手法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全に施行できる。・実施が利用者の苦痛を取り除き、もしくは軽減に結びつけることができる。・利用者・家族の命を守り、生活の質の向上に結びつけることができる。・介護福祉士の社会的な介護ニーズに応え、介護の質を高めることができる。

コマ数	内 容
1 2	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論③
3 4	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論④
5 6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論⑤
7 8	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論⑥
9 10	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論⑦
11 12	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説①
13 14	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説②
15 16	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説③
17 18	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説④
19 20	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論①
21 22	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論②
23 24	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論③
25 26	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論④
27 28	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論⑤
29 30	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論⑥

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア

レポート、小テスト、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、60点以上  
(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	
キリスト教倫理	講義	久保親哉

授業の回数 (単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15回	2 単位	第1学年	選択 ○

[授業の目的・ねらい]  
 キリスト教の世界観を通して、自分の中にある倫理観を見つめ、捉え直すことと同時に、人としてどう生きるかを自らに問い、探索することを目的とします。

[授業全体の内容の概要]  
 私たちはどう生きるか、そして世界はどうあるべきかという問いに対して、キリスト教はどのように答え得るのかを聖書に照らし合わせて考えます。それを踏まえた上で、倫理とは何か、また倫理がどのような根拠によって考えられるべきであるのかを共に学んでいきます。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]  
 この授業を通して、その時点で自分がどのような倫理観を持つ人間か、そうした自分がこの世界においてどのように人と関わり、社会と関わっていくのかという自分なりの考えが養われることを期待します。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	聖書について
3	なぜ倫理を学ぶのか
4	人格形成の倫理学 (1)
5	人格形成の倫理学 (2)
6	人格形成の倫理学 (3)
7	聖書と生命倫理 (1)
8	聖書と生命倫理 (2)
9	聖書と生命倫理 (3)
10	聖書と生命倫理 (4)
11	聖書と社会倫理 (1)
12	聖書と社会倫理 (2)
13	聖書と環境倫理 (1)
14	聖書と環境倫理 (2)
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
テキストは聖書。その都度、ハンドアウトを用意します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー 30% (2%×15回)</li> <li>・出欠と授業態度 20%</li> <li>・学期末レポート 50%</li> </ul> (試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60%以上を合格とします。

(科目名)	授業の種類	授業担当者
基礎ゼミ I	演習	内田 智美

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30	2 単位	1年	選択	○

[授業の目的・ねらい]

授業では伝えきれない介護の専門的知識や介護実習において必要な知識を中心に学んでいきます。

[授業全体の内容の概要]

介護福祉士として必要な基礎的知識を習得し、専門用語、授業時間で理解できなかった箇所を明確にして理解を深める。授業で学んだことを整理して自分でも説明できるようになることで、授業内容がより理解できることにつながります。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護福祉士としての支援方法や自己理解、他者理解などについて考え説明することができる。

- ・ 授業における理解度を把握することができる。
- ・ 基礎的な知識や技術を習得することができる。
- ・ 介護の専門用語を理解することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション（授業の目的・概要説明）、PCの貸し出し、職員室の入り方
2	ノートの取り方、レポートの提出方法
3	入学前課題の解答解説①
4	入学前課題の解答解説②
5	入学前課題の解答解説③
6	入学前課題の解答解説④
7	報告会準備：司会、タイムキーパー、書記、質疑応答の練習
8	報告会準備：司会、タイムキーパー、書記、質疑応答の練習
9	実習報告会 参加
10	実習報告会 振り返り
11	実習前準備① 記録の書き方
12	実習前準備② 記録の書き方
13	実習前準備③ 実習施設概要
14	実習前準備④ 情報収集、ICF
15	実習前準備⑤ 情報収集、ICF

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

はじめて学ぶ 介護の日本語基本の知識  
外国人の介護記録の読み書き練習帳  
介護用語辞典

出席率、授業態度・授業への取り組み、レポート、模擬試験結果などを総合的に判断する。総合的に判断し60点以上で単位取得とする。

(試験やレポートの評価基準など)

授業参加態度（授業への参加度、発言、積極性）  
課題レポート（内容、期日）、模擬試験60%以上の正解

(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会福祉現場実習指導Ⅰ	講義	栗田 陽子

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]  
 相談援助の意義を理解する。さらに、個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識・技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。また、社会福祉専門職としての自覚を促し、求められている資質、技能、倫理、自己に求められる課題等を習得する。

[授業全体の内容の概要]  
 第1段階実習(体験実習)に向けて、講義、ビデオ学習、施設見学、グループ討議、自己学習により基本的事項を学び、実習前に必要な準備態勢を整える。また、考察を深めるためにレポートを作成する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]  
 ①社会福祉施設の概要と社会的枠割を知る。②福祉現場の専門職の業務・役割を理解する。③施設で生活する利用者について理解する。④利用者とのコミュニケーションの方法を習得する。⑤地域と施設の関係を考える視点を持つ。

コマ数	内 容
1	相談援助実習の意義と概要 実習指導における個別指導及び集団指導の意義・心構え
2	実習分野・実習先施設・機関に関する理解Ⅰ(高齢者の施設)ビデオ学習含む レポート提出
3	実習分野・実習先施設・機関に関する理解Ⅱ(知的障害者の施設)ビデオ学習含む レポート提出
4	実習先の利用者及び介護等関連業務に関する理解Ⅰ(高齢者)ビデオ学習含む レポート提出
5	実習先の利用者及び介護等関連業務に関する理解Ⅱ(知的障害者)ビデオ学習含む レポート提出
6	実習先の利用者及び介護等関連業務に関する理解Ⅲ(身体障害者)ビデオ学習含む レポート提出
7	実習先の利用者及び保育等関連業務に関する理解(自閉症児)ビデオ学習含む レポート提出
8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 施設利用者の権利擁護
9	施設見学事前学習(根拠・関連法令、事業内容、職員構成)
10	施設見学Ⅰ(高齢者施設) レポート提出
11	施設見学Ⅱ(障害者施設) レポート提出
12	実習生調書作成 実習先施設理解 実習目標の作成
13	実習要項の確認 巡回指導の理解 倫理・守秘義務等の理解
14	実習ファイル(実習記録)の意義 記録内容・記録方法・取り扱いに関する理解
15	第一段階実習事前指導 個別スーパービジョン 実習知識評価

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	レポートの提出、グループ討議・授業への参加。相談援助実習を実施する (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会福祉援助技術演習	演習	栗田 陽子

授業の回数 (単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ 2 単位	第1学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]  
自己理解・他者理解を基礎としながら、コミュニケーションに関わる様々な視点や技術を身につける。

[授業全体の内容の概要]  
講義・演習を通して、自己や他者理解を深め価値観の差を学ぶ。また、グループワークやフィールドワークを行っていく中で、コミュニケーションを客観的に眺め、意図をもって目の前の人間と対峙する経験を積んでいただく。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]  
1. コミュニケーションの基礎となる、読む力・書く力・発表する力を養う。2. コミュニケーション理論・技術を学び実践することで、根拠を伴った関わりの技術を身につける。3. グループワークを通して、役割行動や集団内での自分の在り方を客観視できるようになる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方・約束
2	ケースワークの援助過程
3	インテーク
4	アセスメント
5	プランニング・モニタリング・終結
6	関係機関のしくみ 連携の方法
7	グループワーク 面接の技術
8	グループワーク 事例検討
9	グループワーク 事例検討
10	グループワーク 事例検討
11	文書作成の技法
12	調査方法について
13	グループワーク 事例検討
14	振り返り テスト
15	後期試験 レポート

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
使用テキスト：なし、参考文献：社会福祉援助技術演習ワークブック、中学生・高校生・大学生のための自己理解ワークブック、エクササイズで学ぶ心理学～自己理解と他者理解のために～	参加態度・出席状況・研究課題・試験成績以上を元に、総合的に評価を行う
	(試験やレポートの評価基準など)
	学生個人の価値観や個性を尊重する。

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
社会福祉現場実習		実習	栗田 陽子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
12日間	2 単位	第1学年	選択	○	

[授業の目的・ねらい]

社会福祉実践の現場に入り、施設や機関の果たす役割と機能を学び、社会福祉実践の意味や価値を考える。  
また、クライアントの抱える様々な課題を理解し、主体的に関わる。

[授業全体の内容の概要]

- ①実習施設の機能と職種、地域を対象とした取り組みを学ぶ
- ②クライアントと直接かかわることで、情報収集、アセスメント、支援計画の立案、実施でのソーシャルワークの展開過程を学ぶ
- ③多種職連携、期間連携、地域支援におけるアウトリーチ、ネットワーキングの実践を学ぶ

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・ソーシャルワークの対象をミクロ、メゾ、マクロレベルで捉え、実践に生かす行動力を養う。
- ・学んだ実践技術を個別ニーズに即し活用できる実践力を養う。

コマ数	内 容
1	施設の理念、機能、機関としての役割、地域支援を学ぶ。
2	クライアントを担当し、情報収集、アセスメント、支援計画立案での一連のソーシャルワーク過程を学ぶ。
3	ケース会議等に参加し、多種職連携の実践を学ぶ。
4	関係機関会議等、機関連携を学び、アウトリーチ、ネットワーキング等実践技術を学ぶ。
5	実習指導者の指導を受けることで、スーパーバイズの実践を体験し、学ぶ。
6	学んだ実践技術を活用して、概念化、理論化し実習報告書としてまとめる。
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	実習日誌、実習施設評価を総合して評価する。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
人間関係とコミュニケーションⅡ		講義		杉浦由美子	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15	2 単位	2年		必修	○
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスの特性と求められるマネジメント</li> <li>・組織と運営管理</li> <li>・チーム運営の基本</li> <li>・人材の育成と管理</li> </ul> <p>以上を担当教員の講義、演習を通して習得する。</p>					
<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場におけるチームマネジメントの理論と実践を結びつけることができる。</li> <li>・自分が行うべき仕事内容の分類や内容分析、取り組み方法など、担当業務執行のマネジメントができる</li> <li>・介護サービスの組織の機能と役割を理解できる。</li> <li>・担当業務のマネジメントを踏まえて、業務上の適切なコミュニケーションによる連絡調整に基づく、組織のマネジメントができるようになる。</li> </ul>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数	内 容				
1	チームマネジメントの意義①ヒューマンサービスとしての介護サービス【倫理上のジレンマ】				小テスト3点
2	チームマネジメントの意義②介護現場で求められるチームマネジメント【伝達ゲーム】				小テスト3点
3	チームマネジメントの意義③介護実践におけるチームマネジメントの取り組み【価値交流】				小テスト3点
4	チームマネジメントの実践①ケアを展開するために必要なチームとその取り組み【滅びゆく地球からの脱出】				小テスト3点
5	チームマネジメントの実践②チームでケアを展開するためのマネジメント【NASAゲーム】				小テスト3点
6	チームマネジメントの実践③チームの力を最大化するためのマネジメント【カンファレンストレーニング】				小テスト3点
7	中間振り返り				定期試験30点
8	人材育成・自己研鑽①介護福祉職のキャリアと求められる実践力【ポジティブフィードバック】				小テスト3点
9	人材育成・自己研鑽②介護福祉職としてのキャリアデザイン【助言トレーニング】				小テスト3点
10	人材育成・自己研鑽③介護福祉職のキャリア支援・開発【コーチングでスーパービジョン】				小テスト3点
11	人材育成・自己研鑽④自己研鑽に必要な姿勢【エゴグラム】				小テスト3点
12	介護サービスを支える組織①介護サービスを支える組織の構造【ストレングス】				小テスト3点
13	介護サービスを支える組織②介護サービスを支える組織の機能と役割【ブレインストーミング】				小テスト3点
14	介護サービスを支える組織③介護サービスを支える組織の管理【サービス向上委員会】				小テスト4点
15	まとめ				定期試験30点
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版 (中央法規)			小テスト、定期試験、授業態度（出席を含む）、を勘案して総合評価		
			(試験やレポートの評価基準など)		
			合計60点以上で単位取得とする		

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
高齢者と障害者の福祉制度Ⅱ	講義	杉浦由美子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	2年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

1. 介護福祉士の業務遂行に必要な福祉制度の知識を習得する
2. 介護の実践場面における福祉課題に、福祉制度がどのように活用されるのか理解する
3. 介護福祉士が従事する制度を正しく理解し、公助・共助の連携の中で介護福祉士に求められる役割を理解する

[授業全体の内容の概要]

1. 障害者に関する制度の基礎的枠組みを理解する
2. 権利擁護、保健医療に関する制度の概要を理解する
3. 生活困窮、就労支援ほか地域での生活に関する制度の概要を理解する

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 介護福祉に必要な福祉制度の知識を習得している
2. 介護福祉士が従事する場における、障害者総合支援制度の役割・機能が理解できている
3. 地域共生社会の実現に向けた支援システムにおける介護福祉士の役割・機能が理解できている

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容	
1	障害者保健福祉の動向、「障害者」の定義	小テスト3点
2	障害者保健福祉に関する制度① 歴史	小テスト3点
3	障害者保健福祉に関する制度② 法律 障害児	小テスト3点
4	障害者総合支援制度① 目的 自治体の責務 自立支援給付と地域生活支援事業	小テスト3点
5	障害者総合支援制度② 財源 手続き	小テスト3点
6	障害者総合支援制度③ 障害支援区分認定	小テスト3点
7	中間振り返り試験	定期試験30点
8	個人の権利を守る制度・施策① 虐待防止法	小テスト3点
9	個人の権利を守る制度・施策② 成年後見制度 日常生活自立支援事業	小テスト3点
10	個人の権利を守る制度・施策③ 消費者保護 個人情報保護 苦情	小テスト3点
11	保健医療に関する制度・施策 隣接領域 健康づくり 感染症	小テスト3点
12	貧困対策・生活困窮に関する制度 生活保護法 生活困窮者自立支援制法	小テスト3点
13	地域生活を支援する制度・施策① 就労支援・雇用支援	小テスト3点
14	地域生活を支援する制度・施策② 住生活支援 自殺予防ほか	小テスト4点
15	定期試験	定期試験30点

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新介護福祉士養成講座2  
「社会の理解」第2版

1. 定期試験による評価60%
2. 授業に臨む姿勢・出席と遅刻の状況40%

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
介護の基本Ⅲ		講義	石島美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
30	2 単位	2年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]  
 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を応用的に養うことができる。

[授業全体の内容の概要]  
 ①介護福祉を必要とする人の理解  
 ②介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ  
 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 ①介護福祉士が対象とする様々な人たちの暮らしと生活のニーズについて理解できる  
 ②生活を支援するためのフォーマル、インフォーマルな支援と、地域との連携を理解できる  
 ③介護における安全の確保の方法、リスクマネジメントとは何か、リスク回避の方法について理解できる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1・2	オリエンテーション/介護福祉を必要とする人の理解① 私たちの生活の理解
3・4	介護福祉を必要とする人の理解② 介護福祉を必要とする人たちの暮らし
5・6	介護福祉を必要とする人の理解③ 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解
7・8	介護福祉を必要とする人の理解④ 生活のしづらさの理解とその支援
9・10	単元テスト/まとめ/次回にむけて
11・12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①利用者の生活をささえるしくみ
13・14	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②生活を支えるフォーマルサービスとは
15・16	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③生活をささえるインフォーマルサービスとは
17・18	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ④地域連携
19・20	単元テスト/まとめ/次回にむけて
21・22	介護における安全の確保とリスクマネジメント①介護における安全の確保
23・24	介護における安全の確保とリスクマネジメント②リスクマネジメントとは何か
25・26	介護における安全の確保とリスクマネジメント③感染症対策
27・28	単元テスト/まとめ/次回にむけて
29・30	期末テスト/全体を振り返って

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
中央法規出版・最新介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」 医学評論社 イラストでみる介護福祉用 語辞典	①レポート、課題の提出（提出期限の厳守・内容評価） ②グループ討議・発表への貢献度 ③授業参加の積極性（質問や発言等授業に臨む姿勢・意欲） ④出席状況 ⑤単元テスト ⑥期末テスト これらを総合的に評価する
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者			
介護の基本Ⅳ	演習	石島美紀			
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15	1 単位	2年	後期	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を応用的に養うことができる。

[授業全体の内容の概要]

多職種連携の方法と、関連職種の理解  
安全な介護実践に向けた、介護従事者の健康管理や労働環境の管理について学ぶ

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・介護福祉士が関係する職種や資格について理解し、実践において協働できる方法を身に着ける
- ・介護従事者が安全に介護実践できるための仕組みや方法を理解できる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	協働する多職種の機能と役割①
2	協働する多職種の機能と役割②
3	協働する多職種の機能と役割③
4	協働する多職種の機能と役割④
5	協働する多職種の機能と役割⑤
6	協働する多職種の機能と役割⑥
7	単元テスト
8	単元のまとめ
9	介護従事者音安全①健康管理の意義と目的
10	介護従事者の安全②心の健康
11	介護従事者の安全③身体の健康管理
12	介護従事者の安全④労働環境の整備
13	単元のまとめ／単元テスト
14	期末テスト
15	後期振り返り

[使用テキスト・参考文献]

中央法規出版・最新介護福祉士養成講座  
4「介護の基本Ⅱ」  
医学評論社 イラストでみる介護福祉用  
語辞典

[単位認定の方法及び基準]

- ①レポート、課題の提出（提出期限の厳守・内容評価）
- ②グループ討議・発表への貢献度
- ③授業参加の積極性（質問や発言等授業に臨む姿勢・意欲）
- ④出席状況 ⑤単元テスト ⑥期末テスト これらを総合的に評価する

（試験やレポートの評価基準など）

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅲ (応用技術)	演習	石島美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	1 単位	2年 前期	必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための応用的な知識・技術が習得できる

[授業全体の内容の概要]  
 身体、視覚、聴覚に障害をもつ利用者への実践的な支援を学ぶ  
 応用⇒心身の障害に応じた応用的な生活支援の実践。これまでの授業や実習での学び統合し実践できる  
 視覚⇒視覚障害者の生活を、支援センターでの当事者講和などを通じ理解しつつ、ガイドヘルプの実践を行う  
 聴覚⇒当事者の講師により聴覚障害者の生活の理解及び手話の基本を学ぶ

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]  
 ICFの視点からアセスメントを行い、生活環境を含めた人物像を把握することができる観察力を習得できる。  
 利用者の自立に向けた生活支援のために状況に応じた方法や、用具を選択・活用できる判断力を習得できる。  
 具体的な生活場面において自立支援の視点から根拠に基づいた介護実践に必要な技術を習得できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	応用技術① 移動
2	応用技術② 移乗
3	応用技術③ 食事
4	応用技術④ 排泄
5	応用技術⑤ 福祉機器の活用
6	視覚① ライトセンター見学
7	視覚② 視覚障害者の生活の理解
8	視覚③ ガイドヘルプの基本
9	視覚④ 外出介助の実践
10	視覚⑤ 日常生活支援の実践 振り返り
11	聴覚① 聴覚障害者の生活の理解
12	聴覚② 手話の基本
13	聴覚③ 手話の実践
14	聴覚④ 手話の実践
15	聴覚⑤ 実技テスト 振り返り

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ (中央法規)	実技テスト、レポート、演習時の参加態度を総合的に勘案する  (試験やレポートの評価基準など)
最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ (中央法規)	
最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ (中央法規)	
総合評価で60点以上を合格とする。	

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅳ		講義	黒木 久子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]

・利用者のもつ疾病や障害を理解し、疾病や障害の状況にあわせた生活機能を支援する技術を学ぶ。・利用者の現在の状態を把握し潜在能力を引き出し、自立できる援助の方法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

・利用者のもつ疾病や障害に対し、具体的なイメージが持てるようにする。・尊厳を持った支援をするための考え方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・個別性を考えた介護の展開ができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・状況に応じた生活支援技術について
2	運動機能障害に応じた介護
3	運動機能障害に応じた介護
4	運動機能障害に応じた介護
5	運動機能障害に応じた介護
6	運動機能障害に応じた介護
7	内部障害
8	内部障害
9	内部障害
10	内部障害
11	内部障害
12	障害に応じた支援技術
13	障害に応じた支援技術
14	障害に応じた生活支援技術
15	科目修了試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ	小テスト：確認テスト及び感想、総合評価、60点以上を合格とする
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
生活支援技術V		講義		内田 智美	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]

視覚・聴覚に障害があることにより、日常生活を営むのに様々な制限が生じる。介護福祉士として特性を理解し、一人ひとりがもつ個性を尊重した生活支援技術とその根拠を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

視覚障害・聴覚障害者の日常生活を理解する。具体的な介護場面を想定した生活支援技術の講義や演習を通し、安全・安心そして信頼関係の大切さを習得する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

常に相手の立場に立った支援ができる介護福祉士を目指す。特に視覚・聴覚以外の保有感覚の活用を促し、「話しかけ」「触れる」等の大切さを理解する。

コマ数	内 容
1	授業オリエンテーション 1. 視覚障害者の理解①
2	1. 視覚障害者の生活の理解②
3	1. 聴覚障害の理解①
4	2. 聴覚障害の生活の理解②
5	1. 生活支援と環境整備①
6	1. 生活支援と環境整備①
7	1. 介護技術の展開①
8	1. 介護技術の展開② 2. 歩行（移動）の介護技術①
9	1. 歩行（移動）の介護技術②
10	1. 歩行（移動）の介護技術③
11	1. 歩行（移動）の介護技術④
12	1. コミュニケーションに関する支援①
13	1. コミュニケーションに関する支援②
14	1. 身辺処理に関する支援
15	1. 就労に関する支援 2. 他職種の役割と協同・連携 3. 授業のまとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

1. 『生活支援技術Ⅲ』（中央法規出版） 2. 参考資料を配布	小テスト、レポート、授業態度（出欠を含む）の総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	上記内容を数量化（100点満点）し、判定

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
生活支援技術VI		演習		石川 裕子	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
30コマ	2 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]

家庭生活にかかわる基礎知識の中で、家庭生活の理解と家庭生活の営み（食生活）を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

日常生活を構成する上で最も基本的な単位となる家庭生活の構成要素（家庭経済健康管理と食生活）について学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

利用者ができるだけ今までと同じような環境の中で、在宅での生活ができるように生活設計の考え方、食生活の基礎知識を理解する。

コマ数	内 容		
1	生活支援とは何か	・生活支援の基本的な考え方(食生活支援の視点)	
2	家庭生活の理解	・家族・世帯・家事労働・介護予防	
3	家庭生活の理解	・家庭経営・家計の考え方	・消費者問題
4	家庭生活に関わる基礎知識	・食生活の基礎知識	・食文化
5	栄養の理解	・五大栄養素の働き	
6	栄養の理解	・栄養素の働き	・消化と吸収
7	栄養の理解	・栄養量の把握	・食事バランスガイド
8	食品の安全性	・食品の保存	・表示の見方 ・選択と購入
9	高齢者の栄養	・献立の立て方	・高齢者の食事摂取基準
10	疾病と食事	・生活習慣病と食事療法	・水分管理
11	高齢者の生活と諸問題	・高齢者、障害者の低栄養状態と栄養補給	
12	他職種の役割とチームケア	・咀嚼と嚥下と栄養療法	・調理の配慮
13	食品の安全性	・食品の保存	・表示の見方 ・選択と購入
14	高齢者の栄養	・献立の立て方	・高齢者の食事摂取基準
15	疾病と食事	・生活習慣病と食事療法	・水分管理

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術Ⅰ』	授業態度、出席状況、課題提出、テスト、課題提出物で総合的に評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
生活支援技術Ⅶ		演習		内田 智美	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 ・利用者のもつ疾病や障害を理解し、疾病や障害の状況にあわせた生活機能を支援する技術を学ぶ。・利用者の現在の状態を把握し潜在能力を引き出し、自立できる援助の方法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]  
 ・利用者のもつ疾病や障害に対し、具体的なイメージが持てるようにする。・尊厳を持った支援をするための考え方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 ・個別性を考えた介護の展開ができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・状況に応じた生活支援技術について
2	運動機能障害に応じた介護
3	運動機能障害に応じた介護
4	運動機能障害に応じた介護
5	運動機能障害に応じた介護
6	運動機能障害に応じた介護
7	内部障害
8	内部障害
9	内部障害
10	内部障害
11	内部障害
12	障害に応じた支援技術
13	障害に応じた支援技術
14	障害に応じた生活支援技術
15	科目修了試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ	小テスト：確認テスト及び感想. 総合評価、60点以上を合格とする
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
介護過程Ⅲ		座学及びグループワーク	内田 智美		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
30	4 単位	2年 前期	必須	○	

[授業の目的・ねらい]

「利用者の望む生活を実現するために、介護職がその専門的知識・技術並びに固有の価値に基づき、利用者との協働のもと意図的に支援するための思考と実践の過程」である。介護福祉士として、利用者や利用者を取り巻く環境について情報収集し、それらの情報を統合することで課題（ニーズ）を抽出し、必要な介護計画を立案し実行した上で評価し、再アセスメントへとつながる一連のプロセスを習得できることを目指す。

[授業全体の内容の概要]

利用者はそれぞれに個別の生活歴を重ねて状態像も様々です。本人の望む生活の実現に向けて1人1人に適切な支援を導き出すためには、単に介護福祉の知識・技術を覚えるだけでは不十分です。介護過程の実際を個別の事例を通して学んでいきます。介護過程における一連のプロセスを理解できICF理論を踏まえたアセスメント、計画立案、方法など修得できるように授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・介護過程の展開が理解でき説明できる。
- ・ICFの考え方とアセスメントとの関係性が理解でき説明できる。
- ・事例を基に適切なアセスメントを行うこと、根拠を説明することができる。
- ・事例ごとに適切な介護計画が立案でき根拠を説明できる。
- ・多職種連携・協働とは何かを説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1. 2	オリエンテーション（介護過程の展開について、アセスメント・計画立案・実施・評価）
3. 4	チームケアによる介護過程の展開① チームによる介護過程の展開
5. 6	チームケアによる介護過程の展開② 介護過程とケアマネジメント
7. 8	介護過程の実践的展開、ICFや社会モデルを基本に介護計画を立案する。
9. 10	事例に基づいた介護過程の展開の実際① 紙面事例の展開 アセスメントシート、課題の明確化
11. 12	事例に基づいた介護過程の展開の実際② 紙面事例の展開 介護計画の作成、実施
13. 14	事例に基づいた介護過程の展開の実際③ 紙面事例の展開 評価
15. 16	事例に基づいた介護過程の展開の実際④ 紙面事例の展開 発表
17. 18	事例に基づいた介護過程の展開の実際⑤ 紙面事例の展開発表の意見交換後、介護計画の見直し（再立案）
19. 20	事例に基づいた介護過程の展開の実際⑤ 紙面事例の展開 アセスメントシート、課題の明確化
21. 22	事例に基づいた介護過程の展開の実際⑥ 紙面事例の展開 介護計画の作成、実施
23. 24	事例に基づいた介護過程の展開の実際⑦ 紙面事例の展開 評価
25. 26	事例に基づいた介護過程の展開の実際⑧ 紙面事例の展開 発表
27. 28	事例に基づいた介護過程の展開の実際⑩ 紙面事例の展開発表の意見交換後、介護計画の見直し（再立案）
29. 30	総まとめ / 学期末テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

介護福祉士養成講座9 介護過程 介護用語辞典	出席率、授業態度・授業への取り組み、レポート、模擬試験結果などを総合的に判断する。総合的に判断し60点以上で単位取得とする。
	(試験やレポートの評価基準など)
	授業参加態度（授業への参加度、発言、積極性） 課題レポート（内容、期日）、模擬試験60%以上の正解

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
介護総合演習Ⅲ		演習	内田 智美		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 実習Ⅱ-2に向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習において発揮できるよう実践力を身に付ける。実習後は、十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようになる。

[授業全体の内容の概要]  
 実習Ⅱ-1で収集した情報をもとに行った事例研究を模擬論文としてまとめ発表し、次段階での介護過程の実践につなげる。少人数のゼミ体制をとり、個々の学生に対応した個別指導を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 ・様々な利用者の生活を理解し、個別ケアとチームケアのあり方を理解できる。・個別ケアにおける介護過程の重要性と介護計画の立案に関する基本的な技術を習得する。・実習Ⅱ-1の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護福祉士として次段階実習に向けた自身の課題を明確化できる。

コマ数	内 容
1	実習Ⅱ-1振り返り／模擬論文作成に向けて 全体像
2	実習評価スーパービジョン／収集した情報の整理
3	情報の分析
4	統合化 課題の抽出
5	個別援助計画
6	実施及び結果
7	模擬論文の書き方(合同)
8	ケアプラン完成・論文構想の作成
9	模擬論文の作成／実習Ⅱ-2のねらい
10	模擬論文の作成／自己紹介書、実習目標の完成
11	模擬論文の作成／実習先事前学習(概要)
12	模擬論文発表会①
13	模擬論文発表会②
14	論文発表会振り返り
15	実習前スーパービジョン

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
中央法規出版最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」	出席、グループワークへの取り組み、発表態度、小テストなどの総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護総合演習Ⅳ		演習		内田 智美	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 実習Ⅱ-2で展開した介護過程及び技術の振り返りを通して、介護福祉士有資格者として福祉業務に関わる自己について考え、今後の課題の明確化と自己肯定感を養う。

[授業全体の内容の概要]  
 ゼミことで振り返りを十分にした後、介護過程を事例研究して卒業論文としてまとめる。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]  
 ・介護過程を展開できる・他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

コマ数	内 容
1	実習Ⅱ-2の振り返り① 事例のまとめ
2	実習Ⅱ-2の振り返り② 研究計画書(論文構想)提出
3	事例研究① 研究計画書に基づき全体像の構想
4	事例研究② 参考文献の収集、論文作成/実習評価スーパービジョン
5	事例研究③ 論文作成
6	事例研究④ 論文作成
7	事例研究⑤ 論文作成
8	事例研究⑥ 論文作成
9	事例研究⑦ 論文作成
10	事例研究⑧ 論文作成 抄録作成
11	事例研究⑨ 論文作成 論文提出(抄録・論文)
12	事例研究⑩ 発表原稿・スライド作成
13	事例研究⑪ 発表原稿・スライド作成
14	事例研究⑫ 発表原稿・スライド作成 卒論発表
15	論文発表および2年間の授業の振り返り

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
中央法規出版最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」	ゼミグループ・授業参加態度・レポート等を総合的に勘案して評価する
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要					42	
科 目 名				授 業 担 当 者		
介護実習Ⅱ－2				石島美紀		
授業回数	単位数	授業形態	配当学年	必修・選択		実務経験
25日間	4単位	実習	2年	必修		○
[授業の目的・ねらい] 一つの施設において一定期間実習を行い、援助全般について理解し、総合的学習ができる。 一人の利用者を選び、利用者個々の生活リズムや個性に応じた自立生活を前提に一連の介護過程の展開を行う。 専門職としての介護福祉士の在り方を理解し、今後の自己の課題を明確にする。						
[授業全体の内容の概要] 1) 介護過程の展開を一人の利用者を選び、指導者の指導の下に事例学習として実践する。 2) 月単位で行われる施設業務全体の流れを理解するとともに、ケース会議、処遇会議などへ可能な場合は参加する。 3) 早番、遅番、夜勤などの変則勤務を体験する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習Ⅰの目標に加え ・生活支援技術の各分野において利用者のニーズに合わせた実践ができる ・一連の介護過程の展開を実施できる						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						
コマ数	内 容					
1	一つの施設において継続して実習を行い以下の体験をする。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]			
中央法規出版・最新介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 ナツメ社「介護用語辞典」			①施設からの実習評価 ②実習ファイルの提出 ③巡回時の評価 ④所定時間の出席 これらを評価会議において総合的に評価する			
			(試験やレポートの評価基準など)			
			総合評価で60点以上を合格とする。			

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
認知症の理解Ⅱ		講義		利根川都子	
				教員経験	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15	2 単位	2年生		必修	

[授業の目的・ねらい]  
認知症の基礎知識を習得し、認知症の人に対する全人的なケアを学ぶ

[授業全体の内容の概要]

認知症の予防  
認知症の診断と治療  
認知症の人のケアの歴史  
認知症ケアの実際  
介護者への支援

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 認知症の予防のケアが出来る
2. 認知症の診断と治療を理解する
3. 認知症の人のケアの歴史をふまえ、認知症ケアの実際を理解する
4. 介護職を含めた介護者への支援を理解する

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

講義・グループワーク・レポート

ｺｰｽ数	内 容
1	認知症の予防 グループワーク
2	認知症の予防 発表
3	認知症の予防 まとめ
4	認知症の検査・診断
5	認知症の治療
6	認知症の人の歴史Ⅰ
7	認知症の人の歴史Ⅱ
8	認知症を取り巻く状況
9	認知症の人の声
10	パーソンセンタードケア
11	ユマニチュード
12	さまざまなアプローチ
13	認知症の人の家族への支援
14	介護職への支援
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座13  
「認知症の理解」

小テスト・レポート

(試験やレポートの評価基準など)

小テスト・レポート・授業態度により総合的に評価する

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
障害の理解 I		講義		中村 美代子	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 障害の原因や特性、障害のある人の体験を理解するために基礎的知識を学ぶ。障害当事者のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。

[授業全体の内容の概要]  
 精神障害、知的障害、発達障害についての原因と特性・特徴などについて理解を進める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 障害特性を理解した上で、障害当事者の苦しみや葛藤などの心のケアと当事者の利益に繋がる支援について習得する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	適応と適応規則（復習）
3	知的障害のある人の理解
4	知的障害のある人の理解
5	発達障害のある人の理解
6	発達障害のある人の理解
7	精神障害のある人の理解
8	精神障害のある人の理解
9	高次脳機能障害（認知機能について）
10	高次脳機能障害（認知機能について）
11	事例検討・応答トレーニング
12	家族への支援
13	連携と協働
14	事例検討・応答トレーニング
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新・介護福祉士全書 11巻『障害の理解』 (メヂカルフレンド社)	定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	48		
障害の理解Ⅱ	講義	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

障害の原因や特性、障害のある人の体験を理解するために基礎的知識を学ぶ。障害当事者のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。

[授業全体の内容の概要]

精神障害、知的障害、発達障害についての原因と特性・特徴などについて理解を進める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

障害特性を理解した上で、障害当事者の苦しみや葛藤などの心のケアと当事者の利益に繋がる支援について習得する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	適応と適応規則（復習）
3	知的障害のある人の理解
4	知的障害のある人の理解
5	発達障害のある人の理解
6	発達障害のある人の理解
7	精神障害のある人の理解
8	精神障害のある人の理解
9	高次脳機能障害（認知機能について）
10	高次脳機能障害（認知機能について）
11	事例検討・応答トレーニング
12	家族への支援
13	連携と協働
14	事例検討・応答トレーニング
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士全書 11巻『障害の理解』  
(メヂカルフレンド社)

定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅣ		講義	佐久間志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15	2 単位	2 学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

移動、身じたく、食事、入浴、排泄、休息・睡眠等の生活場面ごとに、こころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイント等を学ぶ

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- 1 生活支援行為の妥当性について、例えばなぜ片麻痺のある利用者の介助では麻痺側に立って介助するのかなどを、学生が医学的根拠を持って説明できる
- 2 利用者及び介護職員の安全・安楽の保持、そして効果的な身体力学を、学生がボデイメカニクスの学習を通して理解する
- 3 チームの一員として協働するため、多職種との連携に必要な共通専門用語について理解する

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

各科目ごとにコマシラバスを通して、まとめの振り返りを行う

コマ数	内 容
1	オリエンテーション及び授業内容の説明
2	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第1節 排泄のしくみとポイント
3	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
4	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化に気づくためのポイント
5	第8章 休息と睡眠に休息に関連したこころとからだのしくみ 第1節 休息と睡眠のしくみ
6	第8章 休息と睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
7	第8章 休息と睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
8	第8章 休息と睡眠に関連したこころとからだのしくみ バイタルサイン、薬剤の知識
9	第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第1節 人生の最終段階の「死」のとりえ方
10	第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第2節 死に対するこころの理解
11	第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第3節 終末期から危篤状態
12	第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第3節 死のからだの理解
13	第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第4節 終末期における医療職の連携
14	振り返り
15	科目修了試験

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 2版 中央法規

[単位認定の方法及び基準]

- 定期試験、提出物などを総合評価し、60点以上を合格とする
- (試験やレポートの評価基準など)
- 総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
医療的ケアⅡ	演習	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護福祉士として、「医療的ケアを実施することに対する意義の理解、安全に実施できるための実技指導、医療職に適切につながる判断力の習得を目指す。

[授業全体の内容の概要]

「医療的ケア」が生活支援の一環としての行為を理解したうえで、「喀痰吸引」「経管栄養」の手法を演習を通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全・適切に施行できる。・実施が利用者の苦痛を取り除き、もしくは軽減に結びつけることができる。・利用者・家族の命を守り、生活の質の向上に結びつけることができる。・介護福祉士の社会的な介護ニーズに応え、介護の質を高めることができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション 医療的ケアの基礎 喀痰吸引
2	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔①
3	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔②
4	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔③
5	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔④
6	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔⑤
7	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔⑥
8	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔⑦
9	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部①
10	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部②
11	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部③
12	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部④
13	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部⑤
14	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部⑥
15	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部⑦

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

医療的ケア

レポート、小テスト、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、60点以

(試験やレポートの評価基準など)

ケアの実施の流れ(準備・実施・報告・片づけ・記録まで)と留意点について、すべての行為ごとの実施回数以上の演習を実施した上で、全ての項目について、5回目の実施において指導講師が手順通り実施できると認める。

(科目名)	授業の種類	48		
医療的ケアⅢ	演習	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護福祉士として、「医療的ケアを実施することに対する意義の理解、安全に実施できるための実技指導、医療職に適切につなげる判断力の習得を目指す。

[授業全体の内容の概要]

「医療的ケア」が生活支援の一環としての行為を理解したうえで、「喀痰吸引」「経管栄養」の手法を演習を通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全・適切に施行できる。・実施が利用者の苦痛を取り除き、もしくは軽減に結びつけることができる。・利用者・家族の命を守り、生活の質の向上に結びつけることができる。・介護福祉士の社会的な介護ニーズに応え、介護の質を高めることができる。

コマ数	内 容
1	喀痰吸引のケア実施 まとめ①
2	喀痰吸引のケア実施 まとめ②
3	喀痰吸引のケア実施 まとめ③
4	医療的ケアの基礎 経管栄養
5	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう①
6	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう②
7	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう③
8	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう④
9	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう⑤
10	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養①
11	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養②
12	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養③
13	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養④
14	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養⑤
15	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養⑥

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新介護福祉全書 13巻 医療的ケア

レポート、小テスト、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、60点以

(試験やレポートの評価基準など)

ケアの実施の流れ(準備・実施・報告・片づけ・記録まで)と留意点について、すべての行為ごとの実施回数以上の演習を実施した上で、全ての項目について、5回目の実施において指導講師が手順通り実施できると認める。

授 業 概 要

49

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
基礎ゼミⅡ		講義		石島 美紀	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15	1 単位	2年		選択	○

[授業の目的・ねらい]  
 実習に必要な事前準備や振り返りのための準備などを通じて、実習へスムーズに取り組むことができる

[授業全体の内容の概要]  
 訪問介護実習に向けた事前学習、事後指導  
 実習Ⅱ－1 報告会に向けた準備  
 実習Ⅱ－2 の目標理解と必要書類の準備

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 訪問介護実習へ目標をもって、取り組むことができ、 実践からの振り返りができる  
 実習Ⅱ－1 の経験を振り返り、他者への報告を通じ、自身の課題や次回への抱負を持つことができる  
 実習Ⅱ－2 へ目標をもって、取り組むことができる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

Ⅱ数	内 容
1	2年次学びの全体像について オリエンテーション
2	訪問介護実習にあたって/実習目標、自己紹介書の作成
3	訪問介護サービスの理解
4	在宅サービスの理解（訪問入浴のデモンストレーション）
5	訪問介護サービスの実際（演習）
6	理解度テスト
7	訪問介護実習の振り返り
8	在宅サービスの理解（制度、具体的な運用事例）
9	報告会準備
10	報告会準備
11	実習目標、毎日目標、自己評価書 作成
12	実習目標、毎日目標、自己評価書 作成
13	事前オリエンテーション
14	研究会の参加（外部）
15	施設理解（外部）

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

テキスト、用語辞典、実習ファイル	出席、提出物 が規定通りに行えているか
	(試験やレポートの評価基準など)
	点数化し60点以上を合格とする

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
社会福祉現場実習指導Ⅱ	講義	栗田 陽子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]  
第1段階をふり返りながら、実習目標の到達点を確認するとともに自己の課題を認識する。また、実習体験の効果的な定着を図る。

[授業全体の内容の概要]  
実習課題についてふり返りワークシートを作成し、グループによる体験の共有化を行う。また、施設からの評価表と実習記録をもとに事後指導を行い、目標達成度・課題の整理、スーパービジョンによるふり返りを行う。さらに課題を明確にし、総括レポートとしてまとめる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
自らの実習をふり返り、自己評価、施設からの評価、グループ討議、スーパービジョンにより、現場体験において培った知識、援助技術の内容の理解を深める。

コマ数	内 容
1	実習のふり返りⅠ（ふり返りの意義、ふり返りワークシートの作成）
2	実習のふり返りⅡ（グループでの体験報告・話し合い）
3	実習のふり返りⅢ（実習事後指導、目標達成度・課題の整理）
4	実習のふり返りⅣ（実習事後指導、目標達成度・課題の整理）
5	実習のふり返りⅤ（実習事後指導） 地域と施設の関係
6	福祉専門職としてのあり方と自己覚知
7	実習総括レポートの作成
8	実習総括レポートの作成
9	実習総括レポートの作成
10	実習総括レポートの作成
11	実習総括レポートの作成
12	実習総括レポートの作成
13	実習総括レポートの作成
14	実習総括レポートの作成
15	実習総括レポートの作成

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
『社会福祉小六法』	各種レポートの提出状況 グループ討議・授業への参加状況 期末テスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
家庭福祉論		講義・グループワーク	高橋毅		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15	2 単位	2	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

子どもが育つ家庭は社会環境に大きく影響される。また、家族の有り様は大きく変化している。日本ならびに諸外国の家族(家庭)の歴史を概観し、現代社会が抱える今日的課題を明らかにし、その要因や必要とされる支援を明らかにし、支援の必要性、重要性について理解する。

[授業全体の内容の概要]

地域社会の変容は家族(家庭)の有り様や家族関係に大きな影響を与える。明治以降の社会の変容と家族ならびに家族関係の課題を理解する。また、「家族とは？」を、若年層の家族、高齢家族等、労働、経済、教育、福祉、医療、地域等様々な角度から学び、今日的な課題の要因と対応策について実例に基づきながら考える。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

家族(家庭)の変容と現代的課題を理解するとともに、家族(家庭)を支える諸制度、諸機関を理解する。社会を構成する基盤をなす家族(家庭)を深く理解し、専門職として関わる基盤を培う。また、グループワークまたは個人発表を通じ、協働作業・物事の探求の実際を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	イントロダクション — 「べらぼう」の時代の家族関係 —
2	社会の変容と家族の歴史(家族制度の今・昔)
3	家族(家庭)とは何か? 家族の意味、機能について
4	なぜ家族支援が必要となるのか? 地域社会の変容と家族
5	現代の家族における人間関係。家庭はどんな場なのか?
6	男女共同参画社会/ワークライフバランス
7	育児と仕事の両立/育児における男女共同参画
8	家庭福祉を支える社会資源/グループ発表についてガイダンス
9	グループ発表または個人発表に向けて その①
10	グループ発表または個人発表に向けて その②
11	グループ発表 その1
12	グループ発表 その2
13	グループ発表 その3
14	グループ発表のまとめ。家族のもつ現代的課題と解決の方向性
15	定期テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
資料等を用意します。	レポート提出・定期テスト・出席状況を総合的に評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	レポート：課題を理解し、文章が論理的に展開され、自身の考察が加えられていること。定期テスト：60点以上合格出席状況を加味し評価

(科目名)	授業の種類	授業担当者
児童福祉論	講義	高橋毅

授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	2年生	必修	○

[授業の目的・ねらい]  
 子どもの成長・発達には、家庭及び地域・社会環境が大きく影響する。現代社会の状況を把握することで、未来を担う子どもたちの現代的課題を概観し、今何が必要とされているのかを明らかにし、支援の必要性、重要性について理解する。

[授業全体の内容の概要]  
 児童福祉の法体系や具体的なサービス体系の現状を学び、今日、児童福祉の課題になっている子どもの貧困、虐待、教育格差、養育者の抱える育児不安、経済的な不安等、その要因と対応策について事例に基づきながら考える。その学びの中で、児童福祉から児童（こども）・家庭福祉へ視座の転換の必然性と今後の児童福祉の専門性について理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]  
 子育てする家庭の現代的課題を理解するとともに、こどもならびに家庭を支える諸制度、諸機関を理解する。未来を担うこども一人ひとりの存在が大切であることの理解を深め、専門職としての基盤を培う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	イントロダクション 子どもについてー私の子ども時代と子どもたちの今を考えるー
2	現代社会の子どもの育ち
3	世界は子どもの権利をどう守ってきたかー子どもの権利保障、その歴史的展開ー
4	児童福祉とは？～子どもの権利条約から考える～
5	「児童福祉法」の概要 その①理念、原則、定義、制度の概要
6	児童・家庭福祉を支える法律 その①
7	児童・家庭福祉を支える法律 その②
8	児童・家庭福祉制度を支える組織及び団体の役割と実際 国及び地方公共団体の役割
9	児童・家庭福祉制度を支える組織及び団体の役割と実際 専門機関・専門職
10	児童・家庭福祉制度を支える児童福祉施設
11	児童・家庭を支える福祉の支援 その① 障がいをもつ子どもの家族支援
12	児童・家庭を支える福祉の支援 その② 健全育成と子育て支援、ひとり親家庭の課題と支援
13	子どもの虐待 その要因と対応 ー児童虐待防止法ーについて
14	児童福祉から児童（こども）・家庭福祉への視座の転換
15	まとめ・定期テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
資料等を用意します。	レポート課題・定期テスト・出席状況を総合的に評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	レポート：課題を理解し、文章が論理的に展開され、自身の考察が加えられていること 定期テスト：60点以上合格出席状況を加味し評価

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
福祉事務所運営論	講義	宮脇 護		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	2 単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]

9月30日(火)～講義開始、福祉事務所、社会福祉主事の法的根拠・成立過程と展開、その機能と役割など基礎的知識を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

福祉事務所、社会福祉主事の法的根拠と成立過程・展開と具体的業務内容、そこで働く職員と専門性、倫理、福祉事務所の今日的課題を学習する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

対象となる利用者の人権擁護の視点・職業倫理を身につけ、他機関、職種との連携の下、利用者本位のサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

10月10日～ 木曜日 4時限目、テーマ下記の通り、基本的に講義形式として実施するとともに、実務経験者等から体験談を聞く機会を作ることで、福祉事務所内の雰囲気等を理解させる。加えて発言・記述を行う時間を設け、卒業後の就業等に備える機会を作る。

コマ数	内 容
1	1 現代社会と福祉事務所の運営/福祉事務所を取り巻く環境の変化/社会福祉の目的と福祉事務所の運営/社会福祉行政の執行と福祉事務所の運営 2 福祉事務所の成立と歴史的展開 (一部) 担当・宮脇
2	2 福祉事務所の成立と歴史的展開/福祉事務所、社会福祉主事と生活保護法/現行生活保護法の制定と社会福祉主事制度の創設/社会福祉事業法制定/福祉事務所制度の展開/ 担当・宮脇
3	3 福祉事務所の業務と組織/福祉事務所の組織/福祉事務所の業務/福祉事務所運営指針/福祉事務所の組織と業務の今日的課題 担当・宮脇
4	4 福祉事務所と関係資源との連携/連携の意義と効果/福祉行政機関との連携/保健・医療機関との連携/施設との連携/地域社会資源との連携 担当・宮脇 相模原市の地ケアの取組を聞く。(相模原市 小林)
5	福祉事務所運営面における民生委員/民生委員活動の実際/今日的課題 担当・霧生
6	福祉事務所の専門職員とその役割と実際/現業員、査察指導員の役割/現任訓練 担当・霧生
7	社会福祉主事の専門性・倫理と今日的課題/公務員である意義、地位の二重性、社会福祉職に求められる倫理・態度・能力 担当・霧生
8	福祉事務所をめぐる最近の動向と課題(現場から) 担当 宮脇・(北見)
9	10福祉事務所における自立支援の事例 担当・宮脇・(北見)
10	8 社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開/社会福祉援助技術の基本要素/社会福祉援助技術の体系と方法/社会福祉援助技術の展開過程/対人援助実践とバイオスティックの7原則/ケアマネジメントの意義と実践/9福祉事務所の業務に関する法制度/無料定額宿泊所他 担当・宮脇
11	11福祉事務所をめぐる最近の政策動向等の課題/福祉事務所をめぐる最近の制作動向/福祉事務所における諸課題 担当・宮脇
12	障害者の話を聞く 担当・宮脇(株)障害社 当事者・支援者、介助者
13	神奈川県下福祉事務所経験者の話を聞く 担当 宮脇・霧生・北見・小林(予定)
14	まとめと定期テスト
15	振り返り、試験問題の回答説明および最後に学生から授業等を通じて感じたこと、思ったことを発言する。

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

『福祉事務所運営論』宇山・船水編著(ミネルヴァ書房)

①授業毎のレポート ②定期テスト ③出欠席など受講状況を加味  
(試験やレポートの評価基準など)

①レポート 50% ②定期テスト 50%③ ①②をもとに出欠席など受講状況を加味し、60点以上を合格とする。

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
社会福祉施設経営論		講義	神矢 孝之	
			教員経験	
			○	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]

1. 社会福祉主事に必要な「社会福祉施設経営論」（福祉サービスの経営）の基礎的知識を習得していく。
2. 同上の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているのか理解していく。
3. 上記の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]

1. 社会福祉法人・施設の基礎知識について理解する。
2. 社会福祉施設の経営・運営・管理に関する基礎理論について理解する。
3. 社会福祉施設の経営・運営・管理の基本的な実際について理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 社会福祉主事に必要な「福祉サービスの経営・運営管理」の基礎的知識を習得している。
2. 上記の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どの様な課題を抱えているか理解している。
3. 以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	社会福祉法人の意義と役割
2	社会福祉施設の使命（社会的役割）
3	社会福祉施設の概況と推移
4	社会福祉法人・施設の経営管理
5	問題解決とモチベーション
6	組織におけるリーダーシップ
7	組織におけるチームマネジメント
8	サービス管理の必要性和検討の枠組み
9	福祉サービスとマーケティング
10	福祉サービスの品質マネジメント
11	リスクマネジメントとサービス管理
12	福祉サービスの評価
13	社会福祉施設における契約
14	社会福祉施設における権利擁護
15	前期試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

『社会福祉施設経営管理論 2024』（全国社会福祉協議会）	1. 小テスト；70%、2. 授業態度・意欲；30%
	(試験やレポートの評価基準など)
	1. 小テスト；5点×14回＝70点、2. 授業態度・意欲；2点×15回＝30点【合計】100点満点；80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D（不合格）

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
社会福祉施設経営論		講義	神矢 孝之	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]

1. 社会福祉主事に必要な「社会福祉施設経営論」（福祉サービスの経営）の基礎的知識を習得していく。
2. 同上の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているのか理解していく。
3. 上記の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]

1. 社会福祉法人・施設の基礎知識について理解する。
2. 社会福祉施設の経営・運営・管理に関する基礎理論について理解する。
3. 社会福祉施設の経営・運営・管理の基本的な実際について理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 社会福祉主事に必要な「福祉サービスの経営・運営管理」の基礎的知識を習得している。
2. 上記の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どの様な課題を抱えているか理解している。
3. 以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	社会福祉法人・施設の人事管理
2	社会福祉法人・施設における職員研修
3	社会福祉施設の労務管理
4	社会福祉施設の会計管理と財務管理
5	福祉サービスの財源と経営管理
6	利用者情報の保護（個人情報・プライバシー情報の保護）
7	公益通報者保護の仕組み・情報にかかわる法的課題
8	広報活動
9	社会福祉施設の建物・設備管理
10	福祉用具の活用と維持管理
11	社会福祉法人の実践例 1
12	社会福祉法人の実践例 2
13	社会福祉法人の実践例 3
14	総合演習
15	後期試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

『社会福祉施設経営管理論 2024』（全国社会福祉協議会）	1. 小テスト；70%、2. 授業態度・意欲；30%
	(試験やレポートの評価基準など)
	1. 小テスト；5点×14回=70点、2. 授業態度・意欲；2点×15回=30点【合計】100点満点；80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D（不合格）

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
地域福祉論		講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

1. 社会福祉主事として必要な「地域福祉」の基本的知識を修得していく。
2. 同上の知識が介護・福祉全般の実践場面で、どう活用され、どの様な課題を抱えているのか理解していく。
3. 上記の過程を通して、介護福祉士・社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]

1. 地域福祉の概念と歴史を理解する
2. 地域福祉の主体、団体・組織・専門職の役割を理解する
3. 地域福祉の方法論、地域福祉サービス、財源、地域福祉計画を理解する

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 社会福祉主事に必要な「福祉行財政と福祉計画」の基礎的知識を修得している。
2. 上記の知識が社会福祉主事業務や保育・養護の実践場面においてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解している。
3. 以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

コマ数	内 容
1	地域福祉の概念
2	地域福祉と住民参加
3	地域福祉の基盤と歴史
4	在宅福祉サービスと地域福祉
5	これからの地域福祉のあり方
6	地域福祉の主体
7	地域福祉に係る組織・団体の役割
8	地域福祉推進のための基盤組織
9	地域福祉に係る専門職の役割①
10	地域福祉に係る専門職の役割②
11	地域福祉の方法論
12	地域福祉支える地域福祉サービス
13	地域福祉の財源
14	地域福祉の計画化
15	まとめ；授業全体の総括

[使用テキスト・参考文献]

1. 社会福祉双書「地域福祉論」（全国社会福祉協議会）
2. 「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）

[単位認定の方法及び基準]

1. 小テスト；70%
2. 授業態度・意欲；30%の総合評価

(試験やレポートの評価基準など)

1. 小テスト；5点×14回＝70点
  2. 授業態度；2点×15回＝30点
- 80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D(不合格)